

# 令和3年度 授業改善推進プランの策定方針

大田区立糀谷小学校

校 長 水浦 茂樹

研究主任 田房麻理子

令和3年度実施の区学習効果測定の本校結果を分析しました。過去の結果も踏まえ、本校児童の学習の定着状況を確認するようにした上で、下記のとおり、授業改善推進プランを策定いたしました。現時点での課題は、区学習効果測定で設定される「目標値」のレベルに到達するようにいたしたいと考えています。

そのために、校内研究を基軸に全教職員が授業改善推進プランに沿って授業力を磨くようにいたします。子どもの学びには、知識の吸収が大切であり、基本的な知識や技能は、思考の基盤となります。知識がないのに考えることはできないとの考えが根本にあります。このことを踏まえ、特に重視したいのは、基本的な知識・技能の習得です。日々の授業において、教科書の徹底活用をとおして子どもたちに習得させるようにいたします。

最後に、全ての子どもの成長に合わせて、個性や能力の伸長につなげたいと思っています。特に一人1台端末の活用により、一人一人の力を最大限に伸ばす学びを実現したいと思います。

## 記

### 1 結果について

別ファイルのとおり

### 2 過去を含む分析及び傾向について

詳細は別ファイルのとおりである。直近の3年間の傾向は変わらない。ここでは、概要を述べる。

- ・本校の学力の定着度は、少なくとも3年間の推移を観るに、ほぼ全教科において、各教科の本校の平均正答率が、作成者が設定する目標値を下回っている。また、基準を「区平均正答率」にすると全教科、全観点下回る。
- ・過去3年間における授業改善推進プランの内容を把握すると、単年度の各設問等において、その問題をどう解くのかなどの対策には有効であるが、思考力等の「能力」を年間の授業をとおしてどう育成していくかについては十分に練られているとは言えない。かつ、作成することが目的化している嫌いもある。
- ・これまで作成した授業改善推進プランで取り組んできたにもかかわらず、学力向上の兆しが見えない。本校の特徴として、例えば、算数においては、3年生時では目標値を上回るが、4年生以上になると、目標値を下回る傾向が見られ、現況のままの指導改善では成果が見られないと言える。このことは、本校では、低学年までの児童の学力の程度が、4年生以上に保てないということである。

### 3 本校の学力向上ビジョン

#### (1) キャッチフレーズ

「持続可能な授業改善を！」

- ・単年度ごとの改善ではなく、幅広いスパンで授業改善を行い、児童の学力向上を目指す。
- ・教職員の入れ替わりがあっても対応できるようにする。

#### (2) 中期的達成目標

本年度から3年間（令和3・4・5年）をかけて、授業改善を行い、本校の各教科の平均正答率を目標値程度まで引き上げる。

※成果検証は、令和4年度・5年度・6年度実施の効果測定